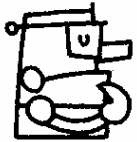


火成岩には、どんな岩石があるの



マグマの冷え方のちがいで、つぶが少ないうもん岩、つぶが見えにくい安山岩、つぶが大きいかこう岩などがあるさ。

マグマの冷え方でちがってくる、かこう岩、安山岩

火成岩は、地下のマグマ(地下の深い所で、高温で岩石がどろどろにとけたもの)が、地上に流れ出て冷えてできたものです。

地上に出たばかりのよう岩は、約 1000 ぐらいですが、600~700 ぐらいまで冷えると、固まり始めて、岩石(火成岩)になります。

火成岩をルーペで見ると、大きなつぶが、がちりかみあってできているのは、火口近くなどでゆっくり冷えた「かこう岩」です。つぶが見えない地に大きなつぶが散らばって見えるのは、急に冷えてできた「安山岩」や「げん武岩」です。

地上にふき出して、急に冷えてできたのが、よう岩の流れがもようで残る「うもん岩」や、真っ黒なガラスのかたまりのような「黒曜石」です。うもん岩と黒曜石は、同じ成分でできていますが、黒曜石のほうが特に速く冷えてできたため、ガラス質になったのです。

マグマの成分や、ふん火のようすでも、ちがったものができる

気体がたくさんとけていたよう岩が、ふん火で空中高く放り上げられ、ガスがあわになってにげ出したあながたくさん残っているのは、軽石です。

ねばり気が残った熱いよう岩が、火口からふき上げられ、空中を飛ばされているうちに固まってできるのが、火山弾かざんだんです。ねばり気のちがいで、いろいろな形のものでできます。細かいよう岩のかけらがとばされたものは、火山灰かざんばいや砂すなになります。

火山灰やよう岩のかけらがふり積もってできた、ぎょうかい岩もあります(これは、たい積岩に分類されることも多い)。

もっと知りたい人へ：「たい積岩には、どんなものがあるの」も見てみよう。